

No.72

すくらむ

2009.1 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

センター業務から

今回は、巡回指導についての報告です。

P2

特別支援教育コーディネーター養成研修(高等学校)から

- ・滋賀県立日野高等学校の取り組みについて
- ・中学校と高等学校の連携について

P3

特別支援教育コーディネーターアドバンス研修(小・中学校)から

- ・市町と中学校区の研修会について
- ・移行支援について

P4

シリーズ「学校・学級紹介」

今回は、福井県立南越養護学校から「金銭教育」の実践についての発信です。

研究発表会のご案内

多数のご参加をお待ちしています。

日時：平成21年2月13日(金) 9:00～受付 9:30～16:00

会場：福井県立大学 交流センター

*詳しくは各学校・機関に配付の実施要項をご覧ください。

センター業務から

通常学級の子どもの支援や校内体制づくりをお手伝いしています。

巡回指導とは…

小・中学校の通常学級に在籍する、言語面や情緒面に特別な教育的ニーズのある子どもを対象に、個別指導や相談を行う支援システムです。巡回指導の様子は、連絡ノートなどを通して保護者や担任に報告します。直接子どもへ指導するだけでなく、保護者や関係機関との連携、校内体制づくりなどの、学校教育相談の充実にも力を入れています。近年、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症などの発達障害の子どもを支援する割合が増えてきています。

※特別支援学級や通級による指導の有無、校内での支援状況、子どもの状態によっては、巡回指導に伺えない場合もあります。

□巡回指導の主な支援



子どもへの支援 …… 個別指導などを通して成功体験を積み、子どものやる気や自己肯定感を育みます。



担任・学校への支援 …… 指導後の相談や連絡ノートのやり取りなどを通して子どもの行動の理解や授業でのかわり方を一緒に考えます。また、担任が一人で抱え込まないように、特別支援教育コーディネーターや管理職とも連携して校内の支援体制を整えます。



保護者への支援 …… 連絡ノートのやり取りなどを通して家庭での支援について一緒に考えたり、保護者の悩みについて相談したりします。



3～4か月に1回程度、保護者や担任、関係者を交えての支援チーム会を実施し、子どもについての情報交換や支援方針について話し合い共通理解を図ります。そして、支援内容や支援目標についての評価・検討・修正が行われます。校内体制が整うことで子どもは変わってきます。一人の子どもへの支援を通して校内体制づくりをお手伝いしています。

養成研修

第4回

「特別支援教育の取り組み ～0からの出発～」

今年始まった特別支援教育コーディネーター養成研修（高等学校）第4回の研修では、全国の先進的な取り組みについて学びました。平成19年度に文部科学省「高等学校における発達障害支援モデル事業」のモデル校に指定された滋賀県立日野高等学校の山口比呂美先生から高等学校における取り組みについて発表していただきました。

日野高等学校では、特別支援教育を「どの生徒にもわかる指導、支援」という共通理解のもと、教職員の啓発・研修や全ての生徒を対象として研究を進めています。山口先生自身が特別支援教育に関しては「0からの出発」と言われましたが、自ら県外の高等学校や小・中学校に出向いて先進的な取り組みを学び、それを教職員に積極的に伝えるなどできることから一つひとつ積み上げてこれられました。主な取り組みを以下にご紹介します。

- 1 教職員の特別支援教育に対する理解を深めるために専門家を招いての校内研修会を年4回実施。
- 2 校内の発達障害のある生徒の把握と授業などでの補助、個別指導。
- 3 公開授業週間による職員相互の授業観察。
- 4 各教科の授業方法や指導方法・評価などの校内教科会議の実施。
- 5 関係機関との連携強化（入学以前の情報を得るために小・中学校へ出向いての聴取など）。
- 6 個別に対応が必要な生徒に関する担任・学年・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な体制づくり。

ポイント

一人ではなく教職員全員で取り組むように働きかけていく中で、少しずつ教職員の意識が変わり、生徒の支援に結びついていったことなどを熱く語っていただきました。

山口先生の実践に強く心を打たれました。何かをやらなくてはという気にさせられました。



子どもたちのために何からでもいいのです。とにかく第一歩を踏み出してください。できることからでいいのです。みんなで一緒に進めていきましょう。

第5回

第5回の研修では、高等学校の受講者とアドバンス研修（中学校）の受講者が集まって中学校と高等学校の連携や移行支援の在り方や進路について協議しました。当センターとしては初めて、中学校と高等学校のコーディネーターが集まって協議をする場を設定しました。垣根を越えて活発な意見交換が行われ、その後に福井県立大学 清水聡准教授やスクラム福井 山口陽一氏からご助言をいただきました。



研究協議から

生徒の情報を、中学校から高等学校にどのようなタイミングで伝えるとよいのか迷っています。

社会へ巣立つために中学校と高等学校で支援するポイントを共通理解する必要があります。

ある地域では5～6月にかけて教育相談や生徒指導担当者による中高連絡会が行われ、高等学校入学後の支援に役立っています。



清水 聡 准教授 より

中学校から高等学校へ進学する際には、学力だけでなく本人の興味や適性について考慮する必要があり、子どもにとって学びやすいかが大切である。

保護者の了解を得て、中学校から高等学校へ情報をつないでいく必要がある。その際、「いつ」、「誰が」、「どのようにして」情報を引き継いでいくかが大きな課題となってきた。



山口 陽一 氏 より

発達障害のある方を支援するためには以下のような支援が必要である。

- ① アセスメントを通して、本人の特徴を明らかにし本人に合った課題を設定する。
 - ② 課題ができない場合はできない原因を探り、できた場合は評価し誉めること。
- その中で正しい障害理解と自己理解を図っていく必要があり、ストレスを調整していく力などをつけていくことが大切である。

アドバンス研修

第4回

アドバンス研修では、研修の一環として各市町や中学校区内の小・中学校、地域の保育園・幼稚園などと連携し研修会を企画し、実施しています。第4回の研修では、研修者の取り組みについて中間報告がありました。その後、福井大学 松木健一教授よりご助言をいただきました。今回は、その主な内容についてお知らせします。

勝山市立勝山南部中学校 佐々木誠治 先生

中学校区の合同研修会の取り組みから

8月に勝山南部中学校区の小・中学校の先生やスクールカウンセラーが集まって合同で研修会を行いました。佐々木先生が講師となって、「ファシリテーションとアイスブレイク」について講義をし、その後、グループに分かれ気がかりな子どもへの支援策について検討しました。

佐々木先生 より

小・中学校の先生方のコミュニケーションを図り、連携を深めるよいきっかけとなった。特別支援教育を推進する上で鍵になるのは「教職員の連携」である。多忙な中にあっても、充実感や満足感を味わえる職場であってこそ特別支援教育も充実していくと確信している。今後も授業や学級経営における具体的な取り組みを考え、全職員一丸となって取り組めるようにしていきたい。また、教職員の連携だけでなく地域をあげて特別支援教育に対する共通認識をもてるように継続的な取り組みを進めていきたい。

美浜町丹生小学校 木子 陽子 先生

第1回美浜ブロック研修会の取り組みから

6月に美浜ブロック研究会が小・中学校の特別支援教育コーディネーターや保育園の園長、保健師、美浜町教育委員会関係者等が集まって行われました。木子先生が、「校内支援体制の充実と関係機関との連携」について発表しました。その後、参加者で情報交換を行いました。

木子先生 より

これまで、就学に向けて、保育園の子どもの様子を聞いたり、交流したりすることはあったが、保育園を訪問して観察をすることはあまりなかった。他校の実践を聞くことで、園と小学校の連携の取り方が具体的に分かり参考になった。保健福祉センターの相談活動について知ることができてよかった。子どもの情報を保健センター・保育園・小学校などで引き継いで共有していくには、保護者の了解を得ることが大切だと感じた。



特別支援教育が起点となって、地域の保育士や先生などが顔見知りになり、分かり合いながら、子どものことについて一緒に考えていくことが大切です。そのような取り組みが、地域の教育力を高めていくことになります。

重要！

新しい生活のスタートに向けて、移行支援をしましょう。

第5回の研修でも話題になった移行支援は進学先でスムーズに学校生活をスタートするためにとても大切です。移行支援を行うことにより子どもは安心して新しい環境で学校生活をスタートすることができています。途切れることのない継続した支援を行うことが重要です。



移行支援のポイント！

保護者の了解

地域における教職員の関係づくり

関係機関との連携

移行支援シートの作成

就学・進学前後の担当者が顔を合わせた支援会議

※移行支援シートは、子どもの様子や養育・指導・支援の内容などを就学先や進学先に伝えるためのツールです。詳しくは、当センター・特別支援学校までご連絡ください。

福井県立南越養護学校

今回は、「特別支援学校における『金銭教育』の実践について」のテーマのもと取り組まれた実践について紹介します。

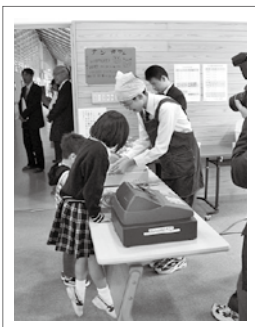
本校では、平成 19・20 年度の2か年にわたり、福井県金融広報委員会から、「金銭教育研究校」の委嘱を受けました。本県ではこれまで 58 校が実践研究に取り組んでいますが、特別支援学校が委嘱を受けたのは「全国初」ということで、本校の研究成果が、本県のみならず全国的にも注目されているところです。

私たちはこの実践研究を通して、子どもたちに次のような力をつけたいと考えています。

- ① 自律心 … 物を欲しがる気持ちを自ら律する力（物欲に対する自己抑制の仕方）
- ② 自主性・主体性 … 自ら選び、自ら決めるという主体的で能動的な姿勢
- ③ 就労意欲 … 働くことの大切さの理解、「労働の対価＝お金（給料）」という意識化
- ④ 生活技能 … 金銭の扱いを知ることと生活技能の獲得
- ⑤ 金銭感覚・金銭管理 … お金の計算や出し方、物の価値を知ること、金銭の自己管理
- ⑥ エコ感覚 … 「物を大切にすること」、「無駄遣いをなくすこと」



このような力の育成を目指し、これまであらゆる学習活動において「金銭教育」の実践に取り組んできました。10月17日（金）には、実践の取り組みを紹介する「金融教育公開授業 in 福井」を本校で開催しました。「なんえつのおみせであそぼう！」「ようこそ！なんえつのおみせへ」と題して行った小・中学部、高等部合同授業は、高等部の生徒が作業学習班ごとに模擬店（ゲームや喫茶）を出



レジでのやり取りの様子
（公開授業）

店し、小・中学部の児童生徒が客になって来店し、チケットやお金を介してやりとりをするという設定でした。作業学習の「サービス班」が取り組んだ喫茶「なんカフェ」では、「『いらっしゃいませ』というあいさつから始まり、お客から注文を取り、飲み物を出す。伝票を見てレジ（研究費で購入した本物のレジスター）を打ち、お客とお金のやり取りを行う。」といった一連の活動を生徒たちが主体となって行いました。当日は、小・中学部の児童生徒と共に参観者にもお客として来店していただき、高等部の生徒たちが行う接客を体験してもらいました。



喫茶「なんカフェ」での
接客の様子（公開授業）

今回、「金銭教育」の実践の一端を紹介しましたが、今後、研究をまとめるにあたっては、このような特別支援学校ならではの特色のある実践を通して、特別支援学校における「金銭教育」の方向性について提案できたらと考えています。

受賞された皆様

（平成20年12月末現在）

福井県教育委員会教育功労賞

高芝 和彦	前鯖江市惜陰小学校長
丹後 清明	前勝山市立成器南小学校長
水岸 かなゑ	前坂井市立丸岡中学校長
竹澤 良全	前福井県立福井東養護学校長

全日本特別支援教育連盟 功労賞

高芝 和彦 前鯖江市惜陰小学校長

福井県特別支援教育連盟 功労賞

〈永年勤続30年〉	岡本 憲義 福井県立福井南養護学校教諭
〈永年勤続20年〉	石見 直也 大野市上庄小学校教諭

江守奨学会教育奨励賞

橋本佐智代	福井県立嶺北養護学校教諭
福井県立嶺南西養護学校	ジョブコーチ的支援研究グループ

おめでとうございます

編集後記

今回の「すくらむ」では、当センターの巡回指導や、南越養護学校の金銭教育の実践を紹介しました。また、前号に続いて特別支援教育コーディネーター養成研修（高等学校）、特別支援教育コーディネーターアドバンス研修（小・中学校）について特集しました。参考にしていただければ幸いです。

当センターでは「すくらむ」についてみなさんのご意見、ご感想をお待ちしております。

センターだより すくらむ 第72号

発行日 平成21年1月19日
 発行所 福井県特別支援教育センター
 所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
 TEL (0776) 53-6574 FAX (0776) 52-6272
 E-mail info@fukuisec.jp
 URL http://www.fukuisec.jp
 福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
 〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
 TEL (0770) 56-1095 FAX (0770) 56-1391
 敦賀駐在 TEL/FAX (0770) 24-0421
 印刷所 創文堂印刷株式会社